

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ホザナ・ルーム		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービス(重症心身も含み)が一体となって運営しているため、子ども一人ひとりに対して長期的なライフサイクルで支援することが出来る。	一人ひとりが抱えている障がいや病気を考慮して過ごせるよう1階と2階のフロアを有効活用している。一方で、終礼や季節のプログラムの際には皆と一緒に参加し、年齢や障害・病気の枠を越えて子ども同士の交流の場も大切にしている。	外部の講師を招き、特別プログラムや保護者向けの講習会等を開催している。また、月に1回程度、職員同士の勉強会を開催し、支援の質の向上に向けた取り組みを行っている。今後も職員や保護者の意見を聞きながら、様々な分野の人達に協力してもらうことを考えている。
2	通所している子ども達が安心して過ごせるよう、スタッフは子ども一人ひとりとときめ細かなコミュニケーションを重視し、日々のちょっとした変化にすぐ対応出来るようにしている。デイサービスの雰囲気と家庭的な雰囲気を合わせながら、子どもとスタッフが一緒に成長出来る場となっている。	様々な資格や経験を有している職員を配置することにより、子ども達や保護者に対する支援を日々充実出来るようにしている。子ども達の安全性を確認しながら、1階と2階の職員の配置を柔軟にすることで誰でもスムーズに支援が出来るようにしている。	以前から連絡ノートの電子化の意見を聞いており、現在一部のフロアを中心に電子化の準備を進めている。業務の効率化に加えて、今まで以上に支援内容が簡潔にまとめることが出来るため、職員と保護者のコミュニケーションが取りやすくなることが期待される。
3	様々な障がいや病気を抱えている子ども達が通所出来るよう事業を運営することで、子ども達自身も困っている友達に対する思いやりや障がい・病気への理解を学べる場として支援を展開している。		

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	昨今の運営において、直接支援に従事しているパートやアルバイトの職員の入れ替わりが激しい時期があった事により、子どもや保護者に不安を与えてしまった。	職員の入れ替わりが激しい件について、やはり支援にかかる体への負担が大きな要因として挙げられる。授業終わりの利用が多く限られた時間ではあるが、身体も大きく重度の障がいや病気を抱えている子どもに対する支援は想像以上の重労働である。	法人全体として、職員一人ひとりの体調管理が重要視されるようになった。特に体への負担が大きい支援のため、その日の職員の体調に合わせて勤務時間の変更や配置替えなどをしながら、無理なく長く働けるよう取り組んでいる。また、働きやすいよう常に情報の共有、勉強会の機会、ボランティア等を積極的に活用していく。
2	児童発達支援において、サービス提供時間が限定的となってしまうため、保護者のニーズに応えることが出来なくなっている。	サービス提供時間の件について、特に児童発達支援においてはサービス提供時間が9:30～14:30のため、共働きが主流の現代では、14:30時点で在宅している保護者は少ない、よってホザナ・ルームに合わせたいのに時間の部分で断念せざるを得ないケースが多くなっている。	児童発達支援の利用を希望する保護者のニーズに応えるため、当施設では多機能型を活かして、午前中に保育所や幼稚園の通っている子どもに対しては午後から放課後等デイサービスと同じ時間帯で通所出来るよう体制を整えている。また、児童発達支援から放課後等デイサービスへスムーズに移行できる点も大きな強みなので、周知していくようにする。
3	ホザナ・ルームの特徴として、子ども達同士が主体的に過ごせるような支援を心掛けている。子ども達は自由にのびのびと過ごすことが出来る一方で、プログラムの質やパターンが画一的になりがちである。	各子どもの支援の基礎にある個別支援計画書について、細かい変更や支援方向の修正が多くなり、必要な場合は1カ月毎に更新する場合もある。変化が多い計画書の中で、職員同士で共有出来ない部分もあり、計画書と支援内容が違う方向になる時もある。	毎朝行っている朝のミーティングや月一開催されているスタッフによる勉強会の際に、子どもの様子や計画書の共有をきちんと行っていく。また、各職員が各子どもの個人ファイルを確認できるよう呼びかけと時間の調整を行っていく。